



# 利根山光人

Toneyama Kojin

第98号 平成30年6月1日

## 記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花 15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

## 利根山光人記念美術館 平成30年度企画展開催中 利根山光人 所蔵作品展

会期:5月25日(金)~8月30日(木)

今回の企画展は、利根山画伯が世界を巡り、目に触れた国々をテーマに描いた作品や日本の民俗芸能をテーマに描いたスケッチ作品を展示します。

メキシコのマヤ文明に特に触発され、民俗芸能に強く魅かれた利根山画伯の作品は生命が宿ったかのように躍動感にあふれています。

自らが感じた感動や衝撃を情熱的に描いた

「太陽の画家」利根山光人画伯の作品をぜひご覧ください。

※8月31日(金)展示替えのため休館日となります。



利根山光人 所蔵作品展

2018年 5月25日(金) - 8月30日(木)  
北上市立利根山光人記念美術館



### 市所蔵作品の紹介



早稲田学報 右は1979年5月号  
左は、1977年1月号「地方だより」

『早稲田学報』とは早稲田大学校友会が発行している会報であり、利根山光人画伯が数年その表紙を描いていました。

「桃太郎」や「鶴女房」などの民話シリーズのほか、全国各地のスケッチなどが描かれています。

今回は1977年1月号の「地方だより」に、岩手県支部の掲載がありましたので、抜粋して紹介いたします。

盛岡市の北郊、小高い丘の上に早稲田学園初代校長南部英麿公の墓所があり、歴代の総長は就任に当って、必ずその墓前に香華を手向ける慣例になっている。(中略)

旧藩主の弟が初代校長だった故か、この岩手県には都の西北を志す者が多く、校友会支部では目下、新名簿編集を急いでいるが、推定では七百人を超えると思われる。

何しろ県知事、県議会議長から始まって、政治・経済・教育・報道・金融とあらゆる方面にわたって、校友がその中心的存在として分布し、活躍しているのだから、まさに岩手県は早稲田を動かしているといっても決して過言ではない。(工藤記)

## 専任研究員一押し作品の紹介 「メキシコ民芸 素焼きの人形」

「ハッ」と気配を感じて顔を上げてそこには誰もいない。「コトツ」と物音が聞こえてたので振り向いても何もいない…。

ひっそりと丘にたたずむ小さな美術館にこの春赴任。その日だけは主となり偉そうに窓口に座るが、ただならぬ妖気に鬼太郎のように髪の毛が跳ね上がり、神経研ぎ澄まして周囲をうかがう日々…。

そこに蠢く妖怪の正体は何だ！？

そうか、わかった。気づけば館内には多くの“目”があり、観賞するはずが見つめられているのはこちらだった。

ししがしらの目、鬼の面の目、ねぶたの目、企画展版画作品「猿の人」の目、光人さんの写真の目…光人さんのコレクション、メキシコ民芸の人形たちのカッと見開いた目！

美術館の静寂の中で、それら多くの目に見つめられていた私。

「妖怪の正体見たりナントヤラ…。」

極め付きは、談話室から見る中庭で、石碑を背景にして向き合う三体の素焼き？メキシコ人形。やつらは常に何かしゃべっているのです。

その中の一体、正面向きのやつは、顔の横に手を持ってきて明らかに何か語って…いや、叫んでいるのです。

こりゃ、生きてるわ～。

というわけで私の一押しの作品は「メキシコ民芸の素焼きの人形」とさせていただきます。ちょっと変化球でしたね。

光人さんごめんなさい…。

どうですか、あそこに見える小さな美術館、一度いらしてみませんか。たくさんのお愉な妖怪たちに会えるかもしれませんよ。

今後ともよろしくお願いいたします。



メキシコ民芸 素焼きの人形

菊地 仁美 専任研究員

### ～移動展開催のお知らせ～

## 「利根山光人展 - 戦争シリーズ」

昨年に引き続き、6月20日(水)～7月15日(日)に北上市立平和記念展示館にて、利根山光人画伯が「戦争」をテーマとした版画作品10点を展示します。

画伯も青春時代に戦争経験しています。

「戦争を風化させてはならない、描き残しておかなくてはならない。」そんな画伯の強い想いが感じられ、「戦争とはなにか」を見る者に訴えかけてきます。入場は無料です。

※北上市立平和記念展示館 北上市和賀町藤根14-147-3

開館／10時～16時 月・火休館 TEL0197-73-5876

問い合わせ先／生涯学習文化課 TEL0197-72-8304



ヒロシマシリーズ A.M.8.15